

## 「知識社会における大学教授職(APIKS)」国際会議の開催について

2019年3月4日－5日／広島ガーデンパレス(広島市)

「知識社会における大学教授職 (APIKS: Academic Profession in the Knowledge Society)」は、2007/2008年に実施した「大学教授職の変容に関する調査研究 (CAP: Changing Academic Profession)」の追跡調査としてスタートしたもので、特に自然科学のSTEM分野(科学、テクノロジー、工学、数学)に焦点をあてた国際比較研究を目的としています。これまでフィンランド(2014)、ブラジル(2015)、韓国(2016)、日本(2017)で国際ワークショップを4回にわたって開催し、共通の質問票を用いた国際共同調査には30カ国以上の研究チームが参加の意思を表明しています。

これまでのワークショップでは、先行研究のレビュー、プロジェクトに参加する研究チームの組織体制の確認、調査手法とデータ管理の方法、調査票の作成などについて協議してきました。大学教授職にとって教育および研究の2つの活動は重要な職務であり、その変容を国際的な視点で比較・分析することには大きな意義があります。また、教育と研究に対する意識や2つの職務の関係性については、大学教授職が所属する国の高等教育のシステム、各高等教育機関、専門分野、職位、年齢といった様々な要因によって差異があることが認識されています。

今回の広島会議における主要な目的は以下の2点です。

- 1) 各国で実施したSTEM分野の大学教授職の教育・研究活動に関する質問票調査の概要および暫定結果を提示すること。
- 2) 研究成果の出版計画および今後の共同研究活動について協議・決定すること。

現時点では、日本以外の21カ国の50名以上のプロジェクトメンバーがこの会議に出席する予定です。会議の発表者には下記のリサーチ・クエスチョンの中から1つもしくは複数の組み合わせで、各国の調査結果に基づく新たな知見について約20分の発表を行ってもらいます。

Q1 あなたの国の教授職の教育活動において最も顕著な特徴は何か？

その特徴はどのように解釈できるか。また、その特徴は高等教育機関のグループ別

(例：公立セクターと私立セクター、研究型大学と教育中心大学、大学セクターと非大学セクターなど)、もしくは学問分野、世代、男女の別などにおいてどのような違いが見られるか。

Q2 あなたの国の教授職の研究活動において最も顕著な特徴は何か？

その特徴はどのように解釈できるか。また、その特徴は高等教育機関のグループ別（例：公立セクターと私立セクター、研究型大学と教育中心大学、大学セクターと非大学セクターなど）、もしくは学問分野、世代、男女の別などにおいてどのような違いが見られるか。

Q3 あなたの国において教育と研究の関係性（the teaching and research nexus）はどのように捉えられるか？

その関係性はどのように解釈できるか。また、その関係性は高等教育機関のグループ別（例：公立セクターと私立セクター、研究型大学と教育中心大学、大学セクターと非大学セクターなど）、もしくは学問分野、世代、男女の別などにおいてどのような違いが見られるか。

Q4 教授職の教育と研究およびその関係性について、あなたの国における重要なテーマや課題は何か？

調査結果のデータ分析から導き出せる今後の研究、高等教育政策、大学教授職の実践に対するインプリケーションはどのようなものが考えられるか。

今回の会議の成果として、会議に提出される論文の中から一定の基準を満たすものを選抜の上、広島大学高等教育開発研究センターが毎年発行する英語ジャーナル **Higher Education Forum** の特別号に掲載します（同誌は Elsevier 社による抄録・引用文献データベース SCOPUS に登録されています）。特別号の暫定タイトルは「知識社会における大学教授職の教育・研究活動に関する国際比較研究：APIKS プロジェクトの主要な調査結果」（An International and Comparative Study of Academics' Teaching and Research Activities in the Knowledge Society: Main findings from the APIKS project）で、2020年3月までの発行を予定しています。出版物に関する詳細は同会議で協議の上、最終的に決定します。

2019年3月開催の広島会議で皆さんにお会いできることを楽しみにしています。

黄 福涛

広島大学高等教育研究開発センター 教授